

平成21年度11月30日付愛媛新聞

職場を超えて 栄養士連携を

松山で研修大会

県栄養士会（藤田正隆会長）の栄養指導者研修大会が29日、松山市道後町2丁目の愛媛看護研修センターであった。医療機関や福祉施設、学校などで栄養管理に従事する栄養士約200人が参加し、職場を超えた連携の大切さを学んだ。

「活躍の場を広げている栄養士」と題したシンポジウムでは、糖尿病療養指導士、栄養教諭、居宅介護支援専門員が日ごろの活動を紹介。

西条市立東予東中の栄養教諭武方美由紀さんは、児童、生徒と保

護者が旬の地元食材を用いた学校給食の献立を考案するコンテストなどを例に挙げ、食に関する指導以外にも活動の機会が広がっていると指摘。「『今食べ

ている食事が10年後の体をつくる』を合言葉に日々、子どもたちと一緒に食事をしながら学んでいる」と話した。

コーディネーターを務めた日本栄養士会の中村丁次会長は、栄養士の仕事が保健、医療、福祉などの領域に細分化されていると述べた上で、「一人の人間の生涯に境界線はない。一生にわたって健康で幸せであるためには、これらの領域が連携していかなければならない」と訴えた。